

### 3 県立長野図書館

#### (1) 図書館事業の概要

図書館が、多様な県民の学びを支える「地域の情報拠点」としての役割を果たすため、県立図書館を中心に様々な情報を生かした新しい図書館づくりを推進した。

- ア 資料の充実（郷土資料・一般図書・児童図書・電子書籍等）  
郷土資料、電子書籍については「企業版ふるさと納税制度」による寄附を活用しての資料収集も実施した。
- イ 新たな情報資源の活用（足漕ぎ発電機、風力計、マイクロスコープ等）
- ウ データベース等の情報提供の充実
- エ 調査相談サービスの充実  
レファレンス協同データベースへの事例登録・提供の促進
- オ 図書館間貸出の促進
  - (ア) 市町村図書館等支援用資料の充実（郷土資料、専門資料等の充実）
  - (イ) 資料返却費用の支援
- カ 公共図書館、学校図書館、図書館未設置町村の支援
  - (ア) 各館の状況に応じた運営支援の実施
  - (イ) 広域単位での研修の企画・実施、開催支援、講師派遣
  - (ウ) 地区ブロック会議への出席等による広域連携に向けた連絡調整及び支援
  - (エ) 図書館設置準備支援
  - (オ) 公式 Facebook ページ等を通じた情報発信の強化
- キ 遠隔地サービスの充実
  - (ア) インターネット予約貸出の実施（送料県負担）
  - (イ) 遠隔地返却窓口の設置
  - (ウ) 複写物郵送受取
- ク 長野県図書館協会との連携活動の推進
  - (ア) 第72回長野県図書館大会（飯田市）
  - (イ) 公共図書館職員研修会の開催
    - ・中堅図書館員研修としての位置づけで、これからの公共図書館研究会の年間開催（全10回）
  - (ウ) 長野県公共図書館館長会議（R4.6）
- ケ 関係機関との連携活動の促進

- (ア) 信州大学附属図書館との連携
- (イ) 株式会社バリューブックス（上田市）との連携協定
- (ウ) 信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター・Fablab 長野（長野市）、株式会社アソビズム（東京）と三者の連携覚書
- (エ) 長野県立美術館との連携協定
- (オ) 長野県埋蔵文化財センターとの連携協定。令和4年8月から同センター図書室「信州考古ライブラリー」の所蔵情報が県立長野図書館のホームページから検索可能となる。
- (カ) 国立情報学研究所高野明彦教授との連携・協力に関する協定
- (キ) 株式会社カーリルとの連携・協力に関する協定

コ 新型コロナウイルスの感染拡大と図書館サービスの制限について

- (ア) 3密という感染要因を回避するため、マスク着用・ソーシャルディスタンスの徹底、常時換気、アルコール消毒、飛沫遮蔽パーテーション（ビニール・アクリル板）の設置、座席の間引き等の対策を講じた。
- (イ) 当館のサービスレベルは、（公社）日本図書館協会のガイドラインや国・県の指針に応じて決定しており、県における警戒レベルの強化に対応した図書館利用イメージをホームページに掲載し、利用者向けの広報を実施した。

(2) 職員組織（人）

館長 1 副館長 1 総務企画課 9（うち 1 副館長） 資料情報課 11 会計年度任用職員 15

(3) 県立長野図書館協議会

委員の構成

職	氏名	所属・職名等
会長	渡邊 匡一	信州大学人文学部 教授
委員	内山 由香里	長野県伊那北高等学校 教諭
	大林 晃美	NPO法人本途人舎 代表理事
	春日 由紀夫	駒ヶ根市立東伊那公民館 館長
	西山 卓郎	株式会社バリューブックス 社員
	平賀 研也	日本大学芸術学部 非常勤講師
	松山 佳奈子	ゆめサポママ@ながの メンバー
	棟田 聖子	松川村図書館 館長

(任期 令和3年1月1日から令和4年12月31日まで)

職	氏名	所属・職名等
会長	渡邊 匡一	信州大学人文学部 教授
委員	内山 由香里	長野県伊那北高等学校 教諭
	大林 晃美	NPO法人本途人舎 代表理事
	春日 由紀夫	駒ヶ根市立東伊那公民館 館長
	田川 圭子	ライター、ナレーター
	田中 一樹	NPO法人 職員
	西山 卓郎	株式会社バリューブックス 社員
	平賀 研也	日本大学芸術学部 非常勤講師
	松山 佳奈子	ゆめサポママ@ながの メンバー
	棟田 聖子	松川村図書館 館長

(任期 令和5年1月1日から令和6年12月31日まで)

(4) 図書館資料 (令和5年3月31日現在)

ア 図書資料

(ア) 図書 総数 759,988 冊

〔 令和4年度受入数 12,904 冊 (うち購入 8,535 冊、寄贈 4,369 冊)  
 令和4年度除籍数 56 冊 (重複蔵書の整理、蔵書整理による不明、  
 汚破損によるもの) 〕

(イ) 雑誌・新聞 雑誌 741 タイトル

新聞 95 タイトル

(ウ) 古典籍、古文書等 268 点

(エ) マイクロフィルム 10,283 リール

(オ) マイクロフィッシュ 1,011 シート

イ 視聴覚資料

(ア) 16 ミリ映画フィルム 2,260 本

(イ) ビデオテープ 3,036 本

(ウ) DVD 179 本

ウ 商用データベース 14 件

(5) 館内利用状況

開館日数 283 日 【平日】 175 日 【土日祝】 108 日  
入館者数 287,332 人 1 日平均 1,015 人

(6) 調査相談

県民等から寄せられるさまざまな調査・相談に対して図書館の資料に基づいて回答する  
レファレンスサービスを実施した。

調査相談件数 (分類別) (単位: 件)

分類	口頭	電話	文書、FAX、 メール	計
郷土	250	93	277	620
総記	32	1	4	37
哲学	37	11	0	48
歴史	119	23	6	148
社会科学	96	47	19	162
自然科学	98	9	1	108
技術	68	14	1	83
産業	61	4	7	72
芸術	98	27	47	172
言語	33	15	4	52
文学	129	34	7	170
絵本	120	12	0	132
新聞・雑誌	58	62	31	151
利用案内等	1,376	2,063	0	3,439
計	2,575	2,415	404	5,394

(7) 図書館間貸出

県民等が必要とする図書館資料を最寄りの公共図書館等を通じて提供する図書館相互の貸借を行った。

図書館相互の貸借冊数

(単位：冊)

図書館等		区 分	
		貸 出	借 受
県 内	公共図書館	1,799	202
	公民館図書室	276	0
	学校図書館	1,408	45
県 外		203	128
合 計		3,686	375

(8) 団体貸出の利用状況

区 分	令和4年度
件 数	26
貸出冊数	73

(9) 図書館改革への取り組みー「本の館」から「地域の情報拠点」「知と創造の場」へ  
 地方創生の新たな時代に対応し、情報・知識基盤社会における多様な県民の「知の拠点」としての役割を果たすため、「情報の改革」「人の変革」「場の革新」により県全体の図書館サービスの中核たる県立図書館としての機能を強化し、公共図書館と共に様々な情報を活かした新しい図書館づくりを推進している。

ア 信州発「これからの図書館フォーラム」の開催

新たな時代にふさわしい図書館のあり方について提案、議論する場を展開

- ・「信州発・これからの図書館フォーラム」(R4.7-R5.2 全3回)
- ・「ラボ・デザイン会議」等

イ 市町村図書館・学校図書館等への支援

- ・「林業士入門講座」(主催：林業総合センター)(R4.7-11 全3回)
- ・「学校図書館・公共図書館 私たちの仕事の目標とするもの」  
(主催：松本市教育委員会 公共図書館司書・学校司書合同研修)(R4.8.26)
- ・「ウィキペディアタウン in 小谷村」  
(主催：北アルプス地域振興局)(R4.9.17)
- ・「北信高等学校図書館協議会研究会 電子図書館サービスにおける学校との連携」(主催：北信高等学校図書館協議会)(R4.9.27) ほか

ウ 先進的モデル空間の運用

「共知・共創（共に知り共に創る）」をコンセプトに、人と人がつながり、共に学びあい、新たな社会的価値が創造されていく場所として「信州・学び創造ラボ」を平成 31 年 4 月にオープン。

・利用状況（R 4. 4-R 5. 3）

催し 山と自然のサイエンスカフェ ほか 112 件

視察 愛知県蒲郡市公共施設マネジメントチーム ほか 6 件

エ 信州 知のポータル『信州ナレッジスクエア』運営

・コンテンツの充実（「eReading Books」に『わたしたちの松川村』、『池田ものがたり』を追加）

・「信州デジタルコモンズ」が「デジタルアーカイブジャパン・アワード※」を受賞

※実施主体：デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会（内閣府 知的財産戦略推進事務局）

オ 電子書籍の提供

・令和 4 年 8 月から、市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」を開始。

また、同月から県立長野図書館電子書籍閲覧サービスとして「KinoDen」を導入